

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

輝かしい歴史と伝統を持つ鳳高校は、生徒の高い向学心と教職員の情熱を礎に、普通科単位制高校の完成形として確固たる地位を築いた。我々のたゆまぬ努力は日々の教育実践のなかに現れている。しかし学校の真価は、単に数字のみで測られるものではない。十分な知識を吸収し、幅広い教養を身につけ、社会を生き抜くための力を高めていく。この全人的な教育こそ、我々鳳高校に与えられた使命である。

この使命を果たすべく、鳳高校が育てる生徒を次の5つとする。

『探求する人』 『挑戦する人』 『教養のある人』 『思いやりのある人』 『振り返りのできる人』

2 中期的目標

鳳高校は、『第一志望をかなえる鳳』、『進路実現100%をめざす鳳』を合言葉に、以下を本校の中期的目標とする。

1 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる。

(1) 高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する姿勢を育む。

(2) 普通科単位制の優位性を具現化するために、ガイダンス体制の一層の充実を図る。

※ 生徒の学校満足度「入学して満足」が100%をめざす。(平成28年度70%)

2 社会を生き抜く力を育成する。

(1) 人に心を開き、思いやりをもって接することのできる生徒を育てる。

(2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。

(3) 社会のルールや人との約束を守る規律性の大切さを教える。

(4) 安全で安心な学校をみんなでつくる。

※ 生徒の「自己管理能力は十分にある」が100%をめざす。(平成28年度74%)

3 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる。

(1) 十分な知識を基盤として、課題を探求する姿勢を育てる。

(2) 「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。

(3) 学校経営推進費事業『フェニックス・プロジェクト』を軌道に乗せ、英語における四技能統合型授業を中心としたアクティブ・ラーニングを推進する。

※ 生徒の「授業内容はよく理解できる」が100%をめざす。(平成28年度79%)

4 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける。

(1) あらゆるチャンネルを活用して本校教育活動の情報発信を行う。

(2) 入試制度の改変をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう、正確な情報の収集と提供を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>◆学習指導・進路指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業時間中は集中できている」75%、「授業内容はよく理解できている」70%となっている。多くの生徒は授業にしっかりと向き合っているものの、クラス内で授業に対する温度差があるようである。また、1年生(71期生)の数値が例年より低いことは課題とすべきところである。 一方、教員の意識としては、「生徒は熱心に授業を受けている」94%、「授業内容はよく理解できているようだ」86%となっており、生徒目線に立ったさらなる授業づくりに取り組む必要がある。 クロス集計の分析で「学校に行くのが楽しい」「入学して満足」と答えた生徒が「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」という項目と高い相関関係を示した。生徒を惹きつけ、生き方を考えさせる深い内容の授業や人権HRなどの取組みを生徒も求めており、それが学校生活の充実感に繋がっていることがデータとして現れた結果となった。学校生活の基本が授業であることを再認識し、授業内容やHR活動・さらに学校行事の充実を図っていきたい。 生徒：「将来の進路や生き方について考える機会がある」83% 「自分の進路に必要な科目が本校の授業から選択できる」90% 教員：「進路指導で生徒の進路意識を啓発し意欲を高める工夫をしている」89% 保護者：「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」78% 「進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」51% 生徒・教員と保護者で数値が大きく異なる項目の一つである。保護者への進路に関する情報提供など、保護者に対する働きかけの方法を検討する必要がある。 ◆生活指導等について <ul style="list-style-type: none"> 生徒：「自己管理能力は十分ある」74% 保護者：「子どもは自己管理能力は十分ある」68% 教員：「生徒の自己管理能力は十分育っている」44% 生徒・保護者と教員で数値が大きく異なる項目の一つである。生活確立週間(ノーチャイムウィーク)の取組みなどを生かし、生徒の意識改革が課題である。 ◆奉仕等の体験学習やボランティア活動について <ul style="list-style-type: none"> 「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」という項目で教員の肯定率が44%であった。「これからの鳳」を考えるときに考慮に入れるべき課題である。地域連携等もより一層図る必要がある。 	<p>◆第1回 平成28年7月25日</p> <p>(1)H28年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期的目標「第一志望をかなえる鳳」「進路実現100%をめざす鳳」について 単なる数字ではなく「第一志望をかなえる」という姿勢は大事にしてほしい。 本当に「第一志望をかなえた」のかデータとして把握・検証する必要がある。 学校教育自己診断に生徒の意識に係る質問を増やし分析すると役立つと思う。 挨拶はよくしてくれるが、遅刻数が気になる。指導の継続を願いたい。 スマホの使用等を含め、時代の流れをよく見て、教師側の勉強も大切。 <p>(2)「フェニックス・プロジェクト」・アクティブ・ラーニングの推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「発信力」「コミュニケーション力」を育成することは全ての教科で必要である。 アクティブ・ラーニングを生かすには基礎となる知識をしっかりと身につけさせる必要がある。 <p>◆第2回 平成28年12月9日</p> <p>(1)学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報プレゼンテーション大会(1年)の取組みはすばらしい。まさに「社会を生き抜く力を育成する」ことに繋がる。 野外活動の民泊も「社会を生き抜く力の育成」であり、継続してほしい。 <p>(2)授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果と授業見学週間をリンクさせ、良い授業を皆で共有するとよい。 <p>(3)広報活動・地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校見学会への保護者参加数の増加を受け、保護者を意識した広報活動も必要。 鳳の良さを地域に積極的にアピールし、ますます地域と密着してほしい。 <p>◆第3回 平成29年2月14日</p> <p>(1)スピーチコンテスト見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度より表情等も含めレベルアップしている。何かを伝えるということを経験で行っていることが素晴らしい。社会に出た時に必ず役立つ取組みである。 多くの人の前で話す機会として意義ある取組みで、是非継続発展してほしい。 <p>(2)「平成28年度学校教育自己診断」結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路に迷う生徒がいるが、将来的に見れば、迷うことも大切であろう。多様な選択肢を提示し、自身でしっかりと考えさせることで進路意識を高め、実現に向け高いレベルで取り組ませる。そのようなプロセスとなるようぜひ指導してほしい。 学校側が常に「学校をより良くしよう」というスタンスで取り組むことが大切。アンケートの結果を踏まえ、学校運営の課題を見つける考察を多くの教職員で行うことが大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる	<p>(1) 生徒が高い志と信念を持って、進路実現に果敢に挑戦するよう導いていく。</p> <p>(2) 普通科単位制の要であるガイダンスが効果的に機能するよう絶えず工夫する。</p>	<p>ア・大学、専門学校、就職それぞれに応じた指導を行い、全員の希望を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 強い意思を持って進路の実現を果たすよう指導する。 センター試験の受験者の増加を図る。 難関大学にチャレンジする気概を育てる。 オーサリングクラウド型学習システムを活用し、自学自習時間の増加を図る。 <p>イ・生徒が最適な科目選択を行うよう、ガイダンスを効果的なものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に進路の資料・情報を自ら収集し咀嚼する姿勢を育てる。 <p>エ・専門家による説明会、講演会等を通して生徒のなかで進路のイメージを具体化させる。</p>	<p>ア・生徒の進路の実現100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> センター試験受験者が増加する。(H27 196名) センター試験受験者の平均点が全教科科目で全国平均を上回る。(H27 達成) 進路に関するホームルーム、各学年月1回以上。 生徒の平日の自学自習時間、全学年で3時間以上。 <p>イ・ガイダンスに係る生徒アンケートの肯定的回答が95%以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員によるガイダンス年間2回実施。 全教員による科目選択申請書点検。 <p>ウ・ガイダンス(進路啓発)HR(含総合学習)1年次 年間15時間、2年次 年間10時間以上。</p> <p>エ・専門家等による進路に関する講演会、説明会等を開催する。(H27 講演会8回、説明会14回実施)</p>	<p>ア・進路実現 87%・・・(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> センター試験受験者数 H28/193(H27/196)・・・(△) センター試験受験者の平均点が全国平均を上回った教科科目(全科目達成できず)・・・(△) 進路に関するホームルーム・・・(△)(1年10/2年/8 3年/7) 生徒の平日の自学自習時間3時間以上25%・・・(△) ガイダンス肯定率 96.7%・・・(○) ガイダンス年間2回実施・・・(○) 全教員による科目選択申請書点検。・・・(○) <p>ウ・ガイダンス(進路啓発)HR 1年次年間16時間、2年次年間10時間・・・(○)</p> <p>エ・専門家等による進路に関する講演会(H28 講演会10回、説明会19回)・・・(○)</p>
2. 社会を生き抜く力を育成する	<p>(1) 思いやりをもって人と接する生徒を育てる。</p> <p>(2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。</p> <p>(3) 社会のルールや約束事を守ることの大切さを教える。</p> <p>(4) 安全で安心な学校をみんなで作る。</p>	<p>ア・自治会活動、学校行事、部活動を通して人間力の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。 <p>イ・オーストラリア海外研修、スピーチコンテスト等を通して、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を育成する。</p> <p>ウ・時間厳守、とくに遅刻数を減らすことに徹底して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全指導、とくに自転車指導に取り組む。 <p>エ・スクールカウンセラーと教職員の情報交換を緊密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 月一回教育相談委員会を開催し、課題を有する生徒に関する情報共有を図る。 薬物乱用防止のための取り組みを継続する。 	<p>ア・校内活性化委員会を中心に、人間力を高めるための工夫を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率100%をめざす。 <p>イ・オーストラリア国際交流研修に参加する生徒15名以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチコンテストの観覧者数(府立高校英語教員、地元中学教員、PTA)の増加。(H27 他校教員12名) 史跡探訪に参加する生徒15名以上。(H27 15名) <p>ウ・生活確立週間を年間3回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーチャイムデーの実施。(H27 3回実施) 毎日の登下校時に安全指導を実施する。 部活動生徒に対する一斉指導の実施。 <p>エ・スクールカウンセラーと教職員のケース会議を適宜開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談に関するテーマでの教職員研修を実施する。 薬物乱用防止教室を年2回実施する。(H27 2回実施) 	<p>ア・「ノーチャイムデー」から「ノーチャイムウィーク」に発展・・・(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率 90.2%・・・(△) 国際交流参加者 19名・・・(○) スピーチコンテスト観覧者数 他校教員 (H27/12名) ◆1年でプレゼンテーション大会を実施・・・(○) 史跡探訪参加者 8名・・・(△)(H27 15名) <p>ウ・生活確率週間 年3回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーチャイムデー 年間3回実施 ↓ ノーチャイムウィークに進化 (H29 . 2実施) ・・・(◎) 遅刻登校者数の減少 -27%・・・(◎)(H27/3916→H28/2882) 登下校指導実施 苦情件数減(H28 13件 昨年20件) ・・・(◎) エ・ケース会議 5回実施 外部講師による教職員研修 12/6 実施「不登校生徒に関わって」 スクールカウンセラーによる初任者研修の実施 薬物乱用防止教室2回・・・(○)

府立鳳高等学校

<p>3. 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる</p>	<p>(1)十分な知識を基盤として、課題を探究する姿勢を育てる。</p> <p>(2)「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。</p> <p>(3)英語におけるアクティブ・ラーニング推進のための「フェニックス・プロジェクト」を軌道に乗せる。</p> <p>(4)英語以外の教科におけるアクティブ・ラーニングを推進する。</p>	<p>ア・生徒自らが課題を発見し、解決のためのプロセスを探究する姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業、研究授業を通じて、教員間で効果的な授業法についての意見交換を行う。 <p>イ・生徒による授業アンケート(年2回)結果を分析し、授業改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に対し、年2回の公開授業への積極的な参加をもとめる。 教科を超えた授業見学を通して、若手教員の授業力向上を図る。 <p>ウ・ICT機器を活用し『四技能統合型授業』を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声・画像、グループワーク等を活用した立体的な授業を展開する。 オーサリングシステムを使った教材により、リスニングを攻略する。 クラウド上の学習教材による反転学習を実現する。 実践の成果を広く発信し、高校英語教育におけるパイロット的役割を果たす。 「フェニックス・プロジェクト」で活用しているICT機器の利用講習会を持ち、各教科における汎用性を高め、実施者の増加を図る 	<p>ア・半期認定科目30科目、全体として140科目の設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開研究授業を年間5回実施。 実用英語技能検定2級合格者の増加。 <p>イ・授業アンケートの結果を、授業力向上につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業参加の保護者数が年間150名以上。 初担任、新任教職員の情報交換会、および「本校が2校目となる教職員の会」も継続実施する。 <p>ウ・音声・画像等を活用したICT機器用教材を作成し、共用教材としてストックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブ型指導方法を実践し、ノウハウを蓄積・共用する。 オーサリングクラウド型学習システムによるリスニング教材を通して、センター試験リスニング問題を攻略する力をつける。 公開授業での実践発表を通して「フェニックス・プロジェクト」の成果を府立高校全体に発信する。 ICT機器活用教員 3割以上 	<p>ア・科目の設置数同じ・・・・・・(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開研究授業9回実施(新任除く)・・・・・・(○) 2級合格者未把握→H29より把握 <p>イ・授業アンケート数値上昇者数値上昇者57%</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業参加数・・・・・・(△)H28 142名(H27 158名) 初担任、新任教職員の情報交換会、および「本校が2校目となる教職員の会」を継続実施する。(3回実施) <p>ウ・英語で実施・・・・・・(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年英語で活用、実践・・・・・・(○) オーサリングクラウド型学習システムの活用実践・・・・・・(○)1年生で実施(活用生徒率68%) 府内並びに他県にも発信できた(他県からの学校訪問4件・他県等への発信6件)・・・・・・(○) ICT機器活用教員44%・・(○)
<p>4. 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける</p>	<p>(1)あらゆるチャンネルを通して本校教育活動の情報発信を行う。</p> <p>(2)入試制度の改変をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験できるよう正確な情報の収集と提供を行う。</p>	<p>ア・今年度の入試結果を分析し、今後の効果的な広報活動につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> HPのきめ細かい更新を行う。 学校協議会の意見・提言を学校運営の改善に生かす。 <p>イ・全教職員で在校生出身中学を訪問し、情報連携を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育産業との意見交換を適宜おこなう。 	<p>ア・全教職員で中学校を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPのきめ細かい更新を図る。 学校協議会を年間3回開催する。 <p>イ・参加要請のある学校説明会(中学校主催、教育産業主催)にはすべて参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校見学会を年間2回開催する。 中学生、保護者の個別の学校訪問の要望にもきめ細かく対応する。 	<p>ア・中学校訪問実施・・・・・・(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HP更新数4月からの更新数(H28/150回・25%UP)・・・・(○) 要請のあった説明会には参加・・・・(○) 学校見学会2回実施・・・・・・(○) 個別の学校訪問対応件数・・・・(○)(H28 23件/H27 17件)